

ヨナ書この書は神が敵を愛することに腹をたて  
た反抗的な預言者の物語です 旧約聖書の預言書は  
預言者を通して語られた神の言葉を集めたものであるのに対し  
ヨナ書は預言者の言葉には焦点を当てて  
いないという点が特徴的です これはむしろ預言者の  
それも性格の悪い預言者についての物語なのです  
ヨナは旧約聖書の中でほかにもう一か所だけ登場しています  
それはイスラエルの王たちの中でも最悪な王の一人  
ヤロブアム 2 世の時代です ヨナは彼に有利な預言をし彼は  
戦いに勝ちイスラエルの北の境界線を広げて  
領地を増やせろと言いました ここで重要なのは預言者アモス  
はヤロブアムと対決し神はアモスを通してヨナの預言  
を全部覆しヤロブアムはその罪深さのために  
領地を全部失うだろうと言ったことです  
つまりヨナ書より前の書にすでに  
彼の人格を疑うようなエピソードがあるので  
ヨナ書は対照的な組み合わせをシンメトリーに見せる巧みな構成  
になっています 1 章と 3 章はヨナと非イスラエル  
人の出会いについて記しています まずは水夫たちそしてヨナが憎  
むニネベ人たちです どちらの場面もヨナの自己中心  
的な姿と異教徒の謙遜さと悔い改めという  
コントラストを皮肉に描いています 2 章と 4 章はヨナの祈りです一つ  
は悔い改めらしき祈りもう一つは神は寛容すぎると言って  
怒っている祈りです この工夫をこらした構成は  
個性的なナレーションとよく合っています  
物語には読者の予想とは反対のことをする  
人物がたくさん登場します 神に反抗し怒りをむき出しにする  
神の人預言者 荒っぽい人々と思われがちな水  
夫なのに実は柔和で悔い改めて神に立ち返る謙遜な人  
たちそして非常に強く凶悪な帝国の王  
がヨナの短くそっけない言葉で神の  
前にへりくだり王の家畜たちさえそれに倣った  
ということです 現代ではこの種の話をも風刺と呼ぶ  
でしょう 風刺とは特殊な状況に置かれた  
登場人物の愚かさや欠点をユーモアや皮肉を用いて表す物語  
のことです ではそれぞれのセクションを詳しく

見ていきましょう 物語は  
神がヨナにメッセージを伝えるよう命じるところから始まります  
相手はイスラエルの宿敵アッシリア帝国の首都で  
悪と不正がはびこるニネベの街でした  
ところがヨナはニネベとは反対方向に逃げ出し  
船を見つけるとできるだけ西に向かおうとタルシシュを目指しました  
なぜそんなことをしたのでしょうか 恐れのために逃げ出したのか  
あるいはニネベ人が嫌いだったのかここではまだわかりません  
とにかく神の人は神から逃げだしました  
そして異教徒の水夫だらけの船に乗り込み  
船底に降りると眠りこんでしまいました  
神は預言者の目をさますために大嵐を起こしましたが皮肉なことに  
船の上で働いていた水夫たちはしっかりと覚醒し  
事態を把握しこれは神の力によるものだと悟りました  
そこでくじを引いてその原因となった人を探すと  
それはヨナでした 水夫たちがヨナに訳を尋ねると  
ヨナは偽善的なたわごとをまくしたてました  
私はヘブル人で海と陸を造った神を礼拝していますと  
よくそんなことが言えたものです ヨナは海と陸を造った神から逃げる  
ため船に乗っている大馬鹿者だという  
のに水夫たちにどうすればいいかと  
聞かれたヨナは自分を海に投げ込んで殺せばいい  
と答えます 一見立派な答えですが実はそこに  
究極の自己中心が潜んでいました つまりそうすればニネベに行か  
なくて済むと彼は考え何の落ち度もない水夫たちに  
自分を殺す役割を押し付けようとしたのです  
彼らは神に謝りながらやむを得ずヨナを海に放り投げました  
すると嵐がおさまったので水夫たちはイスラエルの神を恐れ  
ヨナとは違って本当に神を恐れ礼拝したのです  
神はニネベから逃げようとしたヨナの計画をくじきました  
海に沈んでいくヨナのために神は変わった墓を用意していました  
巨大な魚の腹です 通常ならこれは当然死を意味するもの  
でした しかしこの物語においてはすべてが  
逆さまでヨナを閉じ込めて死に至らせる  
はずだった魚は潜水艦のように彼を生かすための  
乗り物となったのです 巨大魚の腹の中でヨナは祈りました

その祈りの中でちゃんと謝ることはしませんでした  
が自分を見捨てなかった神に感謝  
をささげこれからは何でも言うことを聞く  
と約束しました 神の応答はコミカルでした  
巨大魚にヨナを陸地に吐き出させたのです  
そして神はもう一度ニネベで宣教するようにヨナに命じ  
ヨナは従いました ニネベは非常に大きな都だった  
ので全部巡り歩くには数日かかります  
ヨナはまず 1 日分の道のりを歩きながらメッセージを語りました  
あと 40 日するとニネベは滅びるこれはヘブル語ではたった 5 つの  
言葉です あまりにも短くまた奇妙な説教  
です 語られるべきことが語られていません  
つまりニネベはどんな悪いことをしたのか  
またこれからどうすべきかが語られていないのです  
誰が彼らを滅ぼすのかもまた驚くべきことに神について  
も何も語られていません これはどういうことでしょう  
ヨナはわざとこのように最小限のことしか言  
わなかったのでしょうか これではまるで自分が語るメッセージ  
を妨げニネベの滅びを招こうとしている  
ようでヨナは何の努力もしていないようです  
彼の本音が何であれその企みはつぶれました  
ヨナの 5 つの言葉のメッセージを聞くやいなや  
ニネベの王も都全体も家畜さえも  
嘆きながら悔い改め灰をかぶったからです  
またしても邪悪な異教徒が神の預言者よりも  
鋭敏に神の呼びかけに反応したのです  
そのため神はニネベを赦し破壊することはしませんでした  
またここでは非常に面白いことが起こっています  
ヨナの短い説教の最後の言葉はヘブル語でハファクですが  
それはひっくり返すという意味です  
これはソドムとゴモラのように滅ぼされた  
という時にも使われますが同時に逆のものに生まれ変わる  
という時にも使われます ヨナの言葉はそういう意味で的中  
したのですが それはヨナの想像とは違う形で  
でした ヨナの敵は悔い改めて神のあわれ  
みを受けて滅ぼされる代わりに生まれ変わった

のです 最後の章ではこれらの出来事が  
まとめられています 激怒したヨナは 2 つめの祈りを祈り  
ます 彼はまずなぜ自分が最初に逃げ  
たかを語ります 怖かったからではありません  
神が慈悲深い方だと知っていたからだと言います  
こともあろうにヨナは神がご自身について語っておられる  
出エジプト記の言葉を引用してそれを侮辱するかのよう  
に神に投げつけているのです 神はあわれみ深いので  
凶悪なニネベを何とかして赦そうとすることを  
知っていたとヨナは言います 何という言い草でしょう  
か  
そしてヨナは神との会話を打ち切り 今すぐここで自  
分を殺してくれと祈ります 自分の敵を赦す神と生  
きるくらいなら死んだ方がましだというわけ  
です  
幸い神はそれを受け流しヨナにその怒りは正  
当なものかと問いかけました ヨナはそれさ  
え無視して都の外に出ると丘に野宿してこ  
れから何が起こるか見届けようとしてしま  
した ニネベ人はもとに戻り結局罰を受ける  
ことになるかもしれないと期待したのです  
ここでとても不思議なことが起こります  
神はヨナが木陰で涼めるように木を生えさ  
せヨナを喜ばせました しかしその後神は虫  
を送り木を食べさせて枯らしてしまっ  
たのでヨナは木陰を失いました 照りつけ  
る太陽にさらされたヨナはまた神に死な  
せてくださいと願いました  
神はもう一度その怒りは正当なものかと  
問いました ヨナは当然です いいから死な  
せてくださいと反論しました  
それが本書に記されているヨナの最後  
の言葉ですが この書は神の言葉をも  
って終わっています  
神にはこの木の出来事を通してヨナにな  
んとかして理解させたかったことがあ  
りました ヨナはたった一日この木の恩  
恵を被っただけなのにそれがなくなると  
惜しんで腹を立てました そこで神は人  
間はこの木よりも価値があるのではない  
か それなら私が迷える何万人もの人  
間と家畜がいる 偉大な都市ニネベを  
心に留め惜しんではいけないのだら  
うか と問いかけます こうしてヨナ  
の敵たちを憐れませてくれと神が頼む  
かのような言葉でこの書が終わるの  
です ヨナの答えは記されていません

それが大事ではないからです この書の目的は読者であるあなたの  
本心を探り出すことです ここでの神の質問はあなたに向け  
られているのです 神があなたの敵を愛していることを  
許せますか この書は鏡の様に私たちのもっと  
も醜い部分を映し出します そして私たちはそれに対してへ  
りくだり自身の敵を愛される神が私たちの中にもヨナが宿っている  
にもかかわらず見捨てないでいてくださることに  
感謝するべきです この不思議な物語は神の憐みの  
広さや深さを告げる良い知らせであり同時に私たちの心を貫き  
見つめ直させる書です これがヨナ書です

ChatGPT で 500 文字に要約

『ヨナ書』は、旧約聖書の一部であり、神が敵を愛することに腹を立てた反抗的な預言者ヨナの物語を描いています。この書は他の預言書とは異なり、預言者の言葉に焦点を当てるのではなく、むしろ性格の悪い預言者ヨナに焦点を置いています。

物語はヨナが神からのメッセージでアッシリアの首都ニネベに行くよう命じられるところから始まります。しかし、ヨナはその任務を避けるために船で逃げ出し、大嵐に遭い船が難破する。ヨナは船上で眠り込んでいたが、水夫たちによって海に投げ込まれ、巨大な魚に飲み込まれます。魚の腹の中で祈り、神に謝罪し、悔い改めることを約束します。

魚の腹から救われた後、ヨナは神の命令に従い、ニネベに行き、都市の滅亡を告げる短いメッセージを伝えます。驚くべきことに、ニネベの住民は神に対して悔い改め、神の憐れみを求めます。神は彼らの悔い改めを受け入れ、都市を滅ぼすことはしません。

物語の終わりに、ヨナは木の影で涼むことができる木を与えられますが、その木は虫によって枯れてしまいます。ヨナは怒り、木を失ったことに対して不平を言います。神はヨナに対して、自分が大都市の住民と家畜を憐れむことを示し、ヨナに向かって問いかける言葉を送ります。

この物語は、神の憐れみと赦しの奥深さを示すものであり、私たちの自己中心的な態度や敵を愛することの難しさについて考えさせられるものです。ヨナの物語は、神の愛と私たちの心にある欠点に対する神の忍耐を通して、私たちに深い教訓をもたらします。